

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
鷹田佳典			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会教育調査実習	MJGa-130701-0	4人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

学生たちは先行研究の整理に始まり、インタビューの質問項目と調査依頼状の作成、インタビューの実施、逐語録の作成、データの分析、論文の作成までを主体的に行った。本格的なインタビューは初めてという学生も多かったが、積極的に質問をし、豊かな語りを引き出すことに成功していた。人数が少なかったこともあるが、互いに協力しながら作業を進めていった点も評価できる。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

男性の育児参加

2. 調査の内容／概要：

育児休暇を取得した男性労働者にインタビュー調査を行い、育児休業の取得を促す（可能にする）要因や育児を通して体験したこと、育児休業後の働き方などについて検討した。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

調査対象者は育児休暇を取得した経験を持つ男性労働者である。選定の理由は、育児休暇を取得しようと思ったきっかけや育休中の子育て、復職後の働き方などを知るためである。

4. 主な調査項目：

育児休暇を取得しようと思ったきっかけ、育休取得中の生活状況、復職後の働き方、現在の育児をめぐる状況についての思い。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

育児休暇を取得した4名の男性労働者に対し、半構造化面接法に基づくインタビュー調査を実施した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

インタビューは夏季休業中に実施した。インタビューの場所は全て調査協力者の職場であった。調査には毎回、2～4名の学生と教員が参加した。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

育児休暇を取得した男性が極めて少ないなか、4名の協力者を得ることができ、それぞれから詳細なインタビューデータを得ることができた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

逐語録を繰り返し読み込んで内容を把握した後、セグメント毎にコード名をつけ、それをグルーピングして中グループを作り、それをもとにストーリーラインを作成した。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

育児休暇を取得した男性労働者は、育児の大変さを実感しつつも、子どもと向き合う時間を持てたことを得難い経験として肯定的に意味づけていた。また、協力者たちは時短勤務など、ワークライフバランスの実現において、多様な働き方ができるようになることの重要性を指摘していた。

10. 報告書刊行の予定と概要：

実習受講生がそれぞれ執筆した論稿をまとめ、報告書を作成した。
社会調査実習報告書Vol.30 2014年3月発行